

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702115		
法人名	医療法人 権頭クリニック		
事業所名	グループホーム 華里		
所在地 (電話番号)	〒807-0897 北九州市八幡西区八枝3丁目12-10 (電話) 093-692-5558		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月27日

【情報提供票より】(H20年7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算	12.8人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独		新築 / 改築
建物構造	鉄骨耐火建築物		造り
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(60,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (7月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	権頭クリニック、正和中央病院、新日鐵八幡記念病院、かじわら歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム周辺には、クリニック・病院がある。利用者は母体である権頭クリニックでの受診や月2回の往診が受けられ、また、利用者の日々の健康状態が看護師を通して医師に伝えられる等、適切な医療が受けられるよう支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価でさらなる取り組みが期待された、地域とのつきあい、市町村との連携、権利擁護に関する制度の理解と活用、職員の異動等による影響への配慮、チームでつくる利用者本位の介護計画、栄養摂取や水分確保、運営に関する家族等意見の反映等大半の項目で改善が認められ、努力が伺える。残された課題についても計画的な取り組みに期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が記載し管理者が取りまとめているが、その内容については職員全体で検証する必要がある。改善課題が多く挙げられており、サービスの質の向上に対する前向きな姿勢がうかがえる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月に1度、金曜日の午後に行っている。会議ではホームの活動報告や外部評価の報告を行っている。前回外部評価後、家族の会が結成され、家族間の親睦が図られている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族に送付するホームの「便り」は内容が充実してきており、家族へのアンケート調査も実施され幅広く家族の意見を拾い上げることに努めている。また、結果はホーム発行の「便り」に掲載し、報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人主催の餅つき大会に町内の子ども会を招いたり、小学生のボランティア、中学校の職場体験を受け入れる等積極的に行っている。また、地域への啓発活動の一環として地域向けの便りを作成し、回覧板で回してもらったり、介護の勉強会参加の呼びかけを行っている。ホームからは市民センター主催のふれあい昼食交流会や地域の祭りに参加し、地域との交流を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「その人らしく、あるがままに」と掲げ、利用者のそれまでの生活状況を理解した上で支援するというホーム独自の理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者及び家族から聴取した希望・要望を元に月1回開催されるミーティングで「その人らしく、あるがままに」を支援していくための検討がなされ、実践に向け日々取り組んでいる。しかし、個人ファイルには生活歴や趣味・嗜好の欄の未記入も見られる。		ケアの方針を決定していく上で利用者の生活歴を把握することは重要であり、万が一職員が交代するような場合であっても同様のサービスが受けられるよう記録に留め、情報が共有されることに期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	餅つきに町内の子ども会、クリスマス会に小学生のボランティアの受け入れを行っている。また、中学校の職場体験等も受けている。ホームからは市民センター主催のふれあい昼食交流会や地域の祭りに参加している。地域への啓発活動の一環として地域向けの便りを作成し、回覧板で回してもらったり、介護の勉強会参加の呼びかけを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘された事項については大半が改善されており、外部評価の意義は理解されている。今回は自己評価を職員が記載したものを管理者がとりまとめているが、自己評価は外部評価よりも改善課題が多く挙げられておりサービスの質の向上に対する前向きな姿勢がうかがえる。		取りまとめられた自己評価については職員全体で検証する必要がある。改善課題については、管理者1人で抱え込まずに計画を立て、職員に割り当てながら改善に努めることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、金曜日の午後を設定し行っている。会議のメンバーは、町内会長、公民館館長、民生委員、地域包括支援センター職員等である。地域交流・情報交換により利用者の地域への参加が実現している。地域便りなども配布し、活動は活性化している。議事録などもきちんと記録・管理されている。		外部評価について報告は行われているが、そのことについての意見交換や改善策・今後の対応策など話し合っていない。施設をより向上させるための運営推進会議で、評価結果を課題として共有し、話し合い、具体的改善策について意見や提案を積極的に出していただく配慮が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、市町村の介護サービス相談員と利用者との相談や、職員と問題解決に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	研修受講者は他職員に研修内容を伝達している。また、職員は地域権利擁護事業等が理解出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時やホームで発行している便り等で報告している。遠方者には電話・手紙で報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、職員が直接意見・苦情等を受ける体制がある。また、アンケートを実施し、幅広く家族の意見の聴取に努め、結果はホーム発行の「便り」に掲載している。苦情ファイルには苦情の内容・対応等について記録している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム内の異動では、頻繁に前勤務場所に顔を出し、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に当たっては適性を重視し、性別及び年齢等で排除することはない。職員の自己実現を代表者は奨励し、管理者も職員のさらなる資格取得等に向け援助している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部及び内部での人権教育に取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人権、地域権利擁護、緊急時の対応等、職員に必要と思われる研修機会の確保に努めている。新入職員には経験を有する職員が付き、指導している。		今後、職員の資格、経験、能力に応じた研修計画の立案が望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との勉強会や意見交換等を実施している。職員の資質向上に向け、8月より介護老人保健施設や特別養護老人ホームへの職員の体験学習を予定している。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイやデイサービスを利用しながら、職員や他の利用者と馴染みの関係を作った上で入所としている。施設や自宅から直接入所となる場合は、職員が他利用者との仲をとりもちながら、部屋の中に閉じこもらないように配慮し、馴染みの関係を構築している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活の中で子育てや料理の作り方、野菜作り等入居者が培ってきたものを学ぶことを大事にし、支えあう関係を作るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者及び家族の希望・意向は、ケース記録・介護計画等に記録しており、サービス担当者会議で検討されている。		初回のアセスメントシートで生活歴、趣味嗜好の記載が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットのフロア・ミーティングで話し合われた事項及び家族の意見等は介護計画に反映されている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートに利用者満足度、目標達成度の項目があり、それら进行评估することで介護計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成20年4月よりショートステイの受け入れを始めている。利用者・家族の希望により自宅への外出・外泊支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、かかりつけ医は選べる体制にある。多くは母体の権頭クリニックを受診されている。また、クリニックより月2回の往診や利用者の日々の健康状態が看護師を通して権頭クリニックの医師に情報が伝わる等、適切な医療を受けられる体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時及び半年ごとに重度化した場合や終末期に向けた事前確認書を取り希望の把握に努めている。実際の看取りの場合は、医師・看護師・職員・家族が話し合い、方針を決めていく体制を整備している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の呼び方は個々の利用者の希望に合わせた呼び方をしている。自尊心を傷つけるような呼びかけはない。また、家族に送付する便り等の写真の掲載については同意を得ている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせた対応に力を入れている。また介助の必要な方には職員が側につき、安心な中で穏やかにコミュニケーションをとり、入居者の喜びに繋がるよう心掛けている。買い物に同行する人、食器の後片付けを職員と一緒にいる人、洗濯物干しをする人、地域の交流に参加する人など、その人にできることを家族的に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は朝、昼、夕と手作りしている。献立も入居者にどんなものが食べたいかを聞き、買い物も一緒にする。魚や野菜が好まれており、同じ法人内の管理栄養士が足りないものを助言するなど、バランスよい組み合わせがなされ、介助の必要な方には、側について、できるだけ全量摂取できるよう心掛けている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>昨年まで入浴時間は午後から夕刻までであったが、現在は希望があれば午前中にも入浴を実施している。原則一日おきの入浴であるが利用者の希望に合わせ、毎日の入浴も可能である。また、入浴の順番は利用者の希望を聞き調整している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、掃除、洗濯、野菜づくり等、利用者個々の生活歴や能力を活かした役割をもって過ごせるよう支援している。また、散歩等も利用者の行きたい所を優先している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外出支援以外に、利用者の希望により美容院、自宅等外出の機会を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間は安全のため鍵をかけているが日中は鍵をかけないよう取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。避難訓練に地域住民への参加の呼びかけは行っているが参加はない。また、ミーティング等で利用者の状態に応じた避難方法について話し合っているが、避難経路である階段の踊り場に荷物が置かれている。		避難経路には常に避難の妨げとなるような物が無いよう配慮することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは入居者の希望を職員が聞いて作成しており、管理栄養士が栄養バランス・カロリー等をチェックし、メニューを修正できる体制にある。		水分摂取量についてもチェック表等にて把握することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快な音や光が入らないように配慮されている。ただし、居室のベッド柵は利用者が起き上がる際に使われるため歪んでいた、食堂のテーブルがガタついたりしている。		利用者に危険が及ばないよう、小さなところにも配慮が望まれる。
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みの物品や家族の写真を飾る等居心地よく過ごせるよう配慮されているが、家族の事情により殺風景な部屋も見られる。		家族の協力が得られない等の場合においても、本人の意向を確認しながら、その人らしく過ごせるような環境づくりに期待したい。